

地域支援だより

東京都立町田の丘学園校長
緒方直彦
相談支援部

第3号 令和2年12月11日発行

人生の価値を見つめ直す

今年も残り少なくなってきました。在宅勤務、外出自粛等で、いつもと仕事や生活のパターンが変わった御家庭も多かったのではないかと思います。子供達の学校生活でも、長期間の休業や分散登校がありました。学校再開後もソーシャルディスタンスを意識した活動への変更、それぞれ前を向いて会話をせずに食べる給食など、学校生活様式も大きく変わってきています。



町田の丘学園のセンター的機能も、大きく形を変えてきています。今年度、会場に集まったの大人数での講演会や研修会はすべて中止にしましたが、小中学校への支援では、あらかじめ録画しておいたものを好きな時間に見ていただくオンデマンド形式の講演や研修、ライブ形式でのWEB研修会などが次々とスタートし、軌道に乗ってきています。小学校や中学校の先生にいろいろな用事でお電話した際、「この前、先生のお話聞きました」と声をかけていただくことが多くなりました。WEB形式の講演会・研修会は時間的・距離的な制約が少ないので、以前に増して多くの方に視聴・参加していただけたというプラスの面も大きいようです。通信環境の違いなどから途中で落ちてしまう（通信が途切れること）事もあるようですが、それを克服するためのICT機器の整備も急ピッチで進んできています。今後は保護者や地域の関係機関の方向けにも、WEB形式での支援を提供していきたいと思っています。

また、今回のコロナ騒動の中では、WEBなどで多くの情報や動画が配信されました。その中には新型コロナウイルス感染症で困っている人たちの力になろうと、知識やスキルを惜しげもなく公開してくれているものも沢山あります。少し前には、安からぬお金を払い会場に足を運ばなければ学ぶことができなかつた事が、今では家にいながらにして無料で学べるようになってきているのです。これも今年大きく進んだ点です。

今、新型コロナウイルスの影響で生活リズムが崩れて、「なんか仕事や学校に行きたくない、楽しくない」と訴える人が増えているそうです。学校でもこうした行き渋りの相談が増えています。そんな時に役立つスキルを一つ御紹介します。やる気が出ないとき、効果があるのは「人生の価値の明確化」です。縁起でもないとお叱りを受けそうですが、自分の葬式の場面を思い浮かべてみてください。そこでは親しい人（家族や友達）が自分について「こんな人だったね」「〇〇をしてくれたね」などと話をしています。あなたはそこで、みんなにどんなことを言ってもらいたいのですか？ここでみんなが言ってくれた事が、あなたが大切にしている「人生の価値」です。「家族や友達に好かれていた人」ならば「家族や友達を大切にする」事が価値となりますし、「仕事で成果を上げ社会に貢献した人」ならば、「仕事を充実させ人々のためになることをする」事が価値となります。それぞれの領域ごとに、ありますよね。

価値がはっきりしてきたら、次は24時間以内に「その価値に近づく行動」を一つすることを宣言します。「おかあさんにありがとうって言う」「家のお手伝いを一つする」、「宿題をする」「仕事に役立つ本を5P読む」など、どんなに小さな事でもいいから宣言し、実行してみます。こうした一歩を踏み出し続けることで、世界の見え方が変わってきます。なんだかやる気が起きない、という方は、是非トライしてみてください。

(コーディネーター 旭岡善介)

R2年度 副籍交流の紹介



今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で例年より遅いスタートとなった副籍交流ですが、2学期も後半になり、間接交流、直接交流ともに流れに乗ってきました。今回の地域支援だよりでは、そんな副籍交流の実際の様子を御紹介します。

間接交流

月に一度、町田市立小・中学校と町田の丘学園の間で交換便が動き、学校便りや学年便りの交換をしています。それぞれの学校の月ごとの取り組みや学校・学年行事の様子、目標などの情報をお便りを通して共有しています。



直接交流

町田の丘学園、御家庭、地域指定校それぞれで新型コロナウイルス感染症拡大防止のための配慮をしながら交流をすすめています。直接朝の会や授業に参加する前に、町田の丘学園の担任と本人、保護者で地域指定校を訪問し、交流級の担任の先生と顔合わせをしています。顔合わせでは、児童・生徒の好きなことや得意なこと、配慮して欲しいことを伝え、交流の日程調整を行います。顔合わせが済んだらよいよ直接交流です。以下の今年度の交流事例をご紹介します。

<知的障害教育部門 小学部>

★2年生★

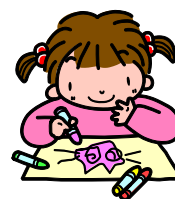
1回目の交流では、朝、小学校の玄関で交流級の子供たちや先生と待ち合わせ、一緒に教室に行って朝の会に参加しました。たくさんの子供たちが歓迎してくれ、大好きな「虹」の歌を歌ってくれました。朝の会の後に一緒にシャボン玉活動をする時間を設定してくださり、活動の中で沢山声をかけてもらったり、一緒にシャボン玉を飛ばしたりと楽しい交流ができました。



2回目は、1回目同様に朝の会に参加した後、図画工作の授業に参加しました。班になっての創作活動で友達とコミュニケーションが取りやすく、穏やかないい雰囲気の中で交流することができ、素敵なリースが出来上がりました。

★5年生★

2時間続きの図画工作の授業に参加しました。「工作用紙を使ってピタゴラスイッチのようなものを作る」という学習活動で、楽しく取り組むことができました。クラスの子たちの工作の様子を見せてもらったり、同じグループの友達と相談して一緒に創作したり、しっかりと授業に参加しながらの交流ができました。いつも笑顔で迎えてくれ、進んで名前を呼んで話しかけてくれたり一緒に活動してくれたり、今までの副籍交流の積み重ねが実を結んでいます。



★6年生★

運動会に参加することを目指して、運動会前の1か月間に計5時間の体育の授業で交流しました。ソーラン節の練習では、全体練習だけでなくグループ練習にも参加し、その中で踊りの順番や場所などをクラスの友達に丁寧に教えてもらい、交流することができました。隊形移動など、説明を聞くだけでは理解するのが難しいこともありましたが、先生や友達が誘導してくれ、みんなと一緒に活動することができました。

運動会当日は練習の成果を発揮することができ、大きな集団の中で頑張っ楽しく踊りきることができました。6年生全員での記念撮影にも参加し、有意義な交流となりました。



<知的障害教育部門 中学部>

★1年生★

初めての副籍交流で、始めは緊張した様子でしたが、自己紹介をして、生徒一人一人からのメッセージが書かれた色紙を受け取ると、次第にリラックスして参加することができました。

美術では、大好きな絵を描くことができ、色使いなどを褒められ嬉しかったようです。次回の交流を楽しみにしています。



★2年生★



理科の授業に参加しました。玄関で先生方が温かく迎えてくれ、スムーズに教室に入ることができました。緊張していて声は小さかったのですが、がんばって前に出て、しっかり挨拶ができました。理科の授業では、雨について学んだり、沸騰の様子を観察する実験をしたりしました。よく観察して、先生の質問に答えることもできました。最後に友達と「またね!」とハイタッチをし、嬉しい交流となりました。

<肢体不自由教育部門>

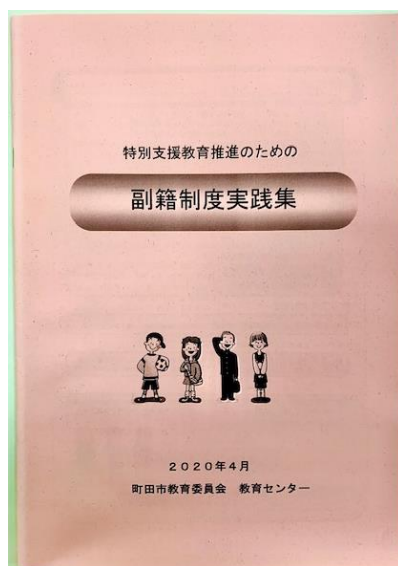
肢体不自由の子供達は、新型コロナウイルス感染のリスクが高いため、今年度は間接交流を中心に行いました。お便りを通じてお互いの学校生活の様子を共有し、状況が整ったら、また直接交流をスタートできるよう計画を練っています。

コロナ禍で例年とは違う環境の中、例年ほどではないものの、共に学び、共に笑い合う交流の機会がもてていることに町田の丘学園の教員一同、感謝しています。今後も社会情勢を伺いつつ、できる範囲で中身の濃い交流を続けていきたいと願っています。



副籍実践集のご紹介

町田市では、市の教育委員会が中心となって直接交流の事例をまとめた「副籍制度実践集」という冊子を独自で作成しています。実践集には、直接交流を行っている学校が、ケースごとの活動内容や交流の成果、感想などをまとめたものが掲載されています。学校名や個人名は伏せられていますが、学校や学年、学級によってさまざまな工夫をして交流を進めている様子がわかりやすくまとめられています。昨年度の実践集が町田の丘学園にも何冊かありますので、御興味がありましたらお声がけください。（令和2年度の副籍交流の実践をまとめたものは、令和3年4月下旬頃に教育センターにて完成予定です。）



<お問合せ先>

東京都立町田の丘学園相談室(特別支援教育コーディネーター)

○本校舎

旭岡 善介（ひのおか ぜんすけ）

〒195-0063 東京都町田市野津田町 2003
電話 042-737-0570 FAX 042-737-0580

○山崎校舎

大澤 紘子（おおさわ ひろこ）

大澤 裕子（おおさわ ゆうこ）

〒195-0075 東京都町田市山崎 1-2-17
電話 042-792-4260 FAX 042-792-4264

